

学番	3	県立新潟南高等学校
----	---	-----------

平成 29 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画				
学 校 運 営 方 針		School Identityの「21世紀に光り輝く江風健児」を育てるために、「志高く学べる学校」、「自己実現の叶う学校」、「社会性の育つ学校」づくりを目指す。		
昨年度の成果と課題		平成 29 年度の重点目標	具体的目標	
〈成果〉 ○進路指導 平成28年度卒業生大学進学者数 ・総計303名（進学率84.6%） ・国公立大(190名) (53.1%) ・難関大学(23名) (6.4%) (既卒生難関大8名(東大1名含)) ○スーパーサイエンスハイスクール（SSH） ・アメリカ研修、北東アジア環境・エネルギーシンポジウム等を実施 ・科学への興味・関心が高まり、論理的思考力、表現力が育成できた ○生徒指導 ・服装指導、交通安全指導を徹底した ・規則正しい生活習慣が育成できた 〈課題〉 ・難関国公立大学進学希望者の増加への対応 ・高大接続改革への対応		○進路意識の啓発と高い進路希望の実現	・定期的な情報提供により進路意識の啓発を行う。 ・大学訪問や講演会等を活用して、探究心や職業観を深め、主体性を育む。 ・課題の精選と課外活動の充実に努め、文武両道を実践する。 ・模試活用と個別面談の充実に図る。 ・東大、京大、国公立大医学部医学科に、1人以上の合格者を輩出し、国公立大学の実合格者数の割合60%以上、難関大学合格者40名以上を目指す。	
		○個性の伸長と文武両道の実践		
		○基本的生活習慣の確立	・毎日の遅刻ゼロを目指す。 ・正しい身だしなみを身につける。 ・自転車運転マナーを遵守させ、交通事故ゼロを目指す。	
		○服装指導と交通安全を重点とする生徒指導の確立		
		○家庭学習習慣の定着	・家庭学習時間の確保(学年+2時間)。 ・難関大学入試問題の分析等により、指導の充実に図る。 ・学習が遅れがちな生徒に対しては丁寧な個別指導を行う。	
		○「第1志望の大学に合格」できる学力養成		
		○SSH事業の推進	・「考える力」をつけるため、課題研究を充実させることにより主体的な課題発見能力・課題解決能力を育成する。 ・他の高等学校、地域内の小中学校等へ研究成果の普及に取り組む。	
		○いじめ防止対策の徹底	・生徒対象アンケートによる実態把握を行い、早期発見に努める。 ・教職員研修により、いじめ対応に係る資質・能力の向上を図る。 ・いじめ防止対策及び発生した場合の対応を組織的に行う。	
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
進路意識の啓発と高い進路希望の実現	進路情報の提供	個人面談年4回以上、学年PTA年2回以上、学年便りの適宜発行など、生徒や保護者との相談及び情報提供を効果的に行う。		A
	探究心や職業観の育成	大学・職場訪問、大学講義体験、修学旅行、進路講演会などを通して、探究心や職業観を育成し、自ら考え、自ら学ぶ姿勢を涵養する。		A
	文武両道の実践	課題の精選に努め、難関大学志望者に対応する課外講習や個別指導の充実、学校行事・部活動の活性化等を図り、主体的な行動を促す。		A
				A

個性の伸 長と文武 両道の実 践	模試の活用と個 別面談の充実	課外講習や模試の事前事後指導を通して、生徒に具体的な目標を設定させる。模試結果から生徒の学習状況を把握し、適性を見極める。	A	A	
		年間を通じて継続的に個別面談を行い、個性を見出し、気づかせ、伸ばす指導を実践し、学びのポートフォリオづくりの一助とする。	A		
基本的生 活習慣の 確立	身だしなみ指導	女子のスカート丈の指導に加え、リボンの正しい着用を徹底する。積極的に声がけを行い、挨拶を励行する。	A		
	交通安全指導	自転車の交通安全指導を通学路で実施する。	A	A	
		交通講話を実施し、交通事故防止への意識を高める。	A		
	携帯電話・S N Sの適切な使用	携帯電話の使用についてルールを守らせる。SNSやLINE等による、ネットトラブルに巻き込まれないよう指導する。	A	A	
	保護者との連携	P T A活動・保護者と連携し、基本的な生活習慣（頭髪、服装、遅刻、早退）を確立させる。	B		
	心のケア	学年・保健部・臨床心理カウンセラーの連携により、生徒の悩みに早期に対応して、不登校等の予防を図る。	A		
学力向上	学習習慣の確立	朝学習と家庭学習課題を充実させ、家庭学習時間（学年＋2時間）を確保することにより基礎学力を定着させる。	A	A	
	成績上位者対応	長期休業中に講習を実施し、学力の向上と発展的学習を行う。	A		
	成績下位者対応	成績不振者には、学年と連携し、講習会や個別指導を実施する。	A		
S S H事 業の推進	「考える力」を つけるための課 題研究充実とT A C Cプロジェ クトの深化	「江風S S I」、「江風S S G」、「江風S S GⅡ」、「スーパーサイエンスイングリッシュⅡ（S S EⅡ）」での指導内容を教材化して、指導マニュアル及び評価マニュアルを作成する。	B	B	
		主体的な課題発見能力・課題解決能力を育成するため、「課題研究」を軸としたS S H事業及び学校設定科目の開発・研究を行う。	B		
	アメリカ研修プ ロジェクトの推 進	「アメリカ研修」を通して諸外国との継続的な科学交流を進めることにより、国際感覚や語学力・コミュニケーション能力・ディスカッション能力を育成する事業の開発・研究を行う。	A	A	
		「S S EⅡ」では、科学論文を英語で作成すること、英語でプレゼンテーションを行うことを学び、課題研究の論文作成と英語での発表を目指す。	A		
	課題研究に対す る意欲の向上	学校全体で積極的に課題研究に取り組み、科学コンテストなど課外活動に積極的に参加させることで生徒一人ひとりの意識を高める。	A		
	情報公開と成果 の普及	課題研究発表、SSHだよりの発行、Webページへの事業内容の掲載、研究会や学会での発表により、研究成果の普及を図る。	A		
いじめ防 止対策	いじめ認知の推 進	生徒対象アンケートを年3回以上実施して、生徒の実態把握に努める。また、教職員対象の研修会を実施し、いじめの早期発見、いじめへの対応に係る教職員の資質・能力の向上を図る。	A	A	
	いじめ事象への 適切な対応	いじめ事象が発生した場合、管理職への報告、関係生徒からの事情聴取、及び指導、保護者への説明等を組織的に行う。	A		
成果	・「考える力をつけさせる授業」をテーマに研究授業を実施した。 ・学則を変更し、三学期制にスムーズに移行することができた。また、答案管理方法を見直し適切な管理が行われた。 ・進路指導では、概ね計画どおり実施できた。新しい入試制度へのスムーズな移行を視野に、情報収集やポートフォリオ作成の準備を進めた。 ・学習面では、各教科間の連携を図り、バランスのとれた課題設定が行われた。また、朝学習・課題・平常講習等への取組を通じて、基礎的な学習習慣を育成できた。 ・SSH事業では、「アメリカ合衆国海外研修」を通じて、海外の高校生に課題研究発表を行い、ディスカッションを行うことができた。第4期SSHの計画を作成を行い申請がとおり、実施校として認可を受けることができた。			総合評価	
				A	